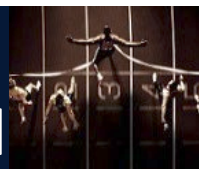


ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンド

Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式

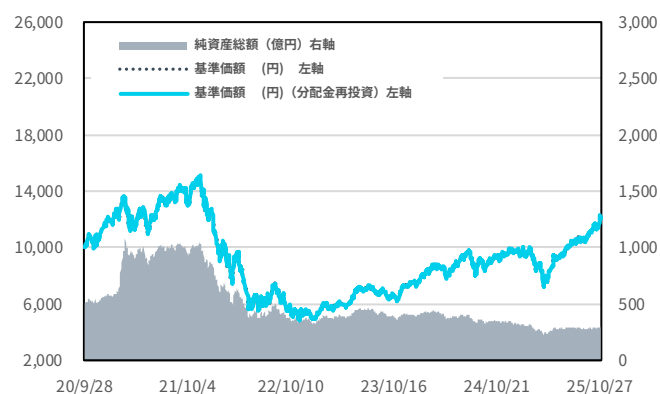
当ファンドは、特化型運用を行います。



■Aコース（為替ヘッジあり）

基準価額	12,126円	設定日	2020年9月28日
純資産総額	297.2億円	信託期間	原則として無期限
決算日	毎年2月25日（休業日の場合は翌営業日）		

運用実績の推移



騰落率（%）

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	8.49	14.69	45.40	29.51	117.58	21.26

分配金実績（1万口当たり、税引き前）

	第1期 '21/2/25	第2期 '22/2/25	第3期 '23/2/27	第4期 '24/2/26	第5期 '25/2/25	累計
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

※基準価額は1万口当たりとなっています。

※基準価額および基準価額（分配金再投資）は信託報酬（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。

※基準価額（分配金再投資）および騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

■Bコース（為替ヘッジなし）

基準価額	22,065円	設定日	2020年9月28日
純資産総額	834.1億円	信託期間	原則として無期限
決算日	毎年2月25日（休業日の場合は翌営業日）		

運用実績の推移



騰落率（%）

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	12.10	19.06	59.08	34.94	166.16	120.65

分配金実績（1万口当たり、税引き前）

	第1期 '21/2/25	第2期 '22/2/25	第3期 '23/2/27	第4期 '24/2/26	第5期 '25/2/25	累計
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

※基準価額は1万口当たりとなっています。

※基準価額および基準価額（分配金再投資）は信託報酬（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。

※基準価額（分配金再投資）および騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

※運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。


※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。

ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンド
Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）
追加型投信／内外／株式



ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式マザーファンドの状況

■資産配分		■国・地域別配分（上位10ヵ国）		■セクター配分	
株式等	99.49%	国・地域	構成比	セクター	構成比
現金他	0.51%	米国	71.00%	半導体・半導体製造装置	53.47%
合計	100.00%	オランダ	7.23%	ソフトウェア・サービス	21.74%
		台湾	7.17%	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	13.33%
		ドイツ	3.16%	金融サービス	4.24%
		韓国	1.89%	一般消費財・サービス流通・小売り	2.39%
		中国	1.88%	メディア・娯楽	2.36%
		日本	1.85%	自動車・自動車部品	0.85%
		カナダ	1.47%	銀行	0.67%
		英国	1.37%	消費者サービス	0.44%
		イスラエル	0.79%		
		その他	1.68%		
		現金他	0.51%	現金他	0.51%
		合計（13ヵ国）	100.00%	合計	100.00%

※構成比はすべてマザーファンドの対純資産総額の比率です。

※セクター配分は、世界産業分類基準（GICS）の分類にて区分しています。ティー・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」をご確認ください。

※現金他には、キャッシュのほか未収・未払金等を含んでおり、マイナスとなる場合もあります。

■組入上位10銘柄					（組入銘柄数：56銘柄）
	銘柄名	セクター	通貨	国・地域	構成比
1	エヌビディア	半導体・半導体製造装置	米ドル	米国	19.35%
2	アップル	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	米ドル	米国	9.31%
3	ブロードコム	半導体・半導体製造装置	米ドル	米国	6.80%
4	台湾セミコンダクター	半導体・半導体製造装置	台湾ドル	台湾	6.69%
5	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	米ドル	米国	6.66%
6	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ(AMD)	半導体・半導体製造装置	米ドル	米国	4.57%
7	ASMLホールディング	半導体・半導体製造装置	ユーロ	オランダ	3.83%
8	アップラビン	ソフトウェア・サービス	米ドル	米国	2.15%
9	インテル	半導体・半導体製造装置	米ドル	米国	2.11%
10	SKハイニックス	半導体・半導体製造装置	韓国ウォン	韓国	1.89%
				合計	63.35%

※構成比はすべてマザーファンドの対純資産総額の比率です。

※セクター配分は、世界産業分類基準（GICS）の分類にて区分しています。ティー・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」をご確認ください。

※当該銘柄の売買を推奨するものではありません。

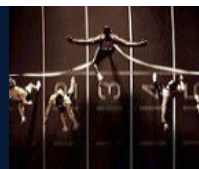
投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。

ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンド

Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式



運用担当者のコメント

■市場概況

10月のグローバル株式市場^(※)は続伸して再び月中に過去最高値を更新しました。

グローバル株式市場の情報技術セクター指数は、前月に続いてグローバル株式市場全体を上回るリターンとなりました。人工知能（AI）の需要拡大により活況が続く先端半導体市場が主導して半導体関連銘柄の株価上昇が目立ったほか、好調なメモリ事業を背景に四半期ベースの営業利益が3年超ぶりの高水準となったことが株価を押し上げたサムスン電子がけん引し、ハードウェア関連銘柄も堅調な株価推移となりました。一方、ソフトウェア関連では、新たなAIモデルなどを発表したものの、競争力低下の懸念が払しょくできないアドビの株価が軟調な推移となったほか、2026年の設備投資額の大幅な増加見通しが嫌気されたマイクロソフトの株価は前月からほぼ横ばいとなりました。

情報技術セクター以外の代表的なテクノロジー銘柄では、好調なクラウドサービス事業を背景に7-9月期の好業績を発表したアルファベット（グーグルの親会社）やアマゾン・ドット・コム（電子商取引（EC）大手）の株価が大きく上昇した一方、メタ・プラットフォームズ（SNS大手のフェイスブックを運営）は、市場予想を上回った7-9月期決算への好感よりもAI関連の巨額の投資負担への警戒感の方が大きかったことから、株価が急落するなど、インターネット・プラットフォーム銘柄で明暗が分かれました。

（※）MSCI オール・カンTRIES・ワールド・インデックス（税引前配当込み、現地通貨ベース）

■運用概況

10月のファンドの騰落率は、Aコース（為替ヘッジあり）が+8.49%、Bコース（為替ヘッジなし）は+12.10%となりました。

組入銘柄では、グラフィック半導体大手のエヌビディア、半導体開発会社のアドバンスト・マイクロ・デバイセズ（AMD）、半導体受託生産大手の台湾セミコンダクター（TSMC）、半導体メーカーのブロードコムといった半導体関連銘柄がプラス寄与の上位となりました。エヌビディアは、2026年にかけて約5000億ドルに上る先端半導体などの受注額を見込んでいると発表したこと、TSMCは、7-9月期の好決算を発表したうえ、2025年通期売上高見通しを上方修正したことなどから、それぞれ株価が上昇しました。また、AMDとブロードコムは、AI開発会社のOpenAIとの連携を発表したことが株価を押し上げました。AMDは、半導体の共同開発で協力し、ブロードコムは、半導体供給の複数年契約を結ぶと発表しました。

一方で、ゲームを中心にモバイル広告向けのマーケティング・プラットフォームを提供するアッパレンは、同社のデータ収集の慣行に対して米証券取引委員会による調査が進行しているとの報道が材料視され、株価が下落しました。当ファンドでは、ECといったゲーム以外の広告への展開により、今後数年間の収益拡大を見込んでいるものの、規制当局による調査を受け、状況を注視しています。

■今後の見通し

テクノロジー銘柄主導の相場上昇が続いています。主要企業の好業績という一定の裏付けはあるものの、AIが将来的にもたらす収益への期待が株価上昇を加速させている状況を、2000年のITバブル崩壊前になぞらえて警戒感を示す声も一部で高まっています。こうした環境下、当ファンドでは、AIはその潜在的な市場規模に鑑みれば長期的な成長を望める投資分野であると引き続き考え、AIアクセラレータ（計算処理を高速化・効率化するために設計された専用のハードウェアなど）、ハイパースケーラー（クラウドサービスの提供者）、関連半導体の受託生産（ファウンドリ）や製造装置のほか、ネットワーキングや電力・熱制御などのインフラを含む様々な分野で関連する有望銘柄に投資していますが、一方で常にバリュエーションは注視し、過熱による不利益を被らないよう努めています。また、投資先を分散することでリスクが偏らないようにも配慮しており、例えばソフトウェア分野で、AIによる浸食が警戒される銘柄を避けながらも、決済手段としての重要性がますます高まっているフィンテックや暗号資産、あるいはサイバーセキュリティといった分野への投資機会を確保しているほか、地域の観点では、日本を含むアジアや欧州などの世界中から、有力なテクノロジー銘柄を、米国に比べると妥当な株価水準で発掘すべく、グローバルな調査体制を活用しています。

当ファンドでは、常に進化を続け、技術革新を通じた成長機会を生み出すテクノロジー業界について、長期にわたり持続的な成長が期待できる投資分野との見方を維持しています。今後も90年近くに及ぶ成長株投資の伝統と世界中に広がる株式調査網を活用し、柔軟かつ機動的ながら規律ある銘柄選択・ポートフォリオ運営を継続し、①経済活動において根幹となる非常に重要な技術（リンチピン・テクノロジー）を提供し、②長期持続的な成長市場で革新性によってシェアを拡大しており、③売上の加速や利益率の改善がみられ、④バリュエーションが妥当な銘柄の発掘を進めてまいります。

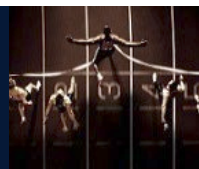
投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。

ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンド

Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式



ファンドの特色

1

ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、世界各国の株式(エマージング・マーケット^{*1}も含みます。)の中で、情報技術の開発、進化、活用により成長性が高いとティー・ロウ・プライスが判断する情報技術関連分野のリーディング・カンパニー^{*2}の株式を中心に投資を行います。

^{*1} エマージング・マーケットとは、経済の発展段階にある国や地域の市場を指し、新興国市場とも呼ばれます。

^{*2} 情報技術関連分野のリーディング・カンパニーとは、情報技術の開発、進化または活用等により、製品、商品、サービス等を提供し、世界をけん引するような企業をいい、今後その可能性があるとティー・ロウ・プライスが判断する企業を含みます。

2

銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ^{*1}」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス^{*2}のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。

^{*1} ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

^{*2} 委託会社およびその関連会社をいいます。

3

Aコースは、実質外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジ(主要国通貨による代替ヘッジを含みます。)を行い、為替変動リスクの低減を図ります。

Bコースは、実質外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジを行いません。

※ 市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記のような運用ができない場合があります。

※ 上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める「特化型運用」を行うファンドに該当します。特化型運用とは、支配的な銘柄^{*}が存在する、または存在することとなる可能性が高いファンドをいいます。

^{*} 支配的な銘柄とは、投資対象候補銘柄の時価総額の合計額に対する一発行体当たりの時価総額の比率が10%を超える場合における当該発行体の発行する銘柄をいいます。

当ファンドは、情報技術関連株式に大きな比重をおいて投資するため、特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該銘柄の発行体に経営・財務破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合または予想される場合等には、大きな損失が発生することがあります。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じる場合があります。当ファンドが有する主なリスク(ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。)は以下の通りです。

株価変動 リスク	当ファンドは、世界の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式(米国預託証券(ADR)、グローバル預託証券(GDR)等を含みます。)の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。また、当ファンドは中小型株に投資することがありますが、時価総額が小さい企業の株式は、大規模企業の株式よりも価格の変動が大きくなる場合があります。当ファンドはエマージング・マーケット(新興国市場)の株式にも投資することがありますが、新興国は先進国と比較して市場が成熟していないため流動性が低く、価格の変動が大きくなる場合があります。
集中投資 リスク	当ファンドは、情報技術関連株式に大きな比重をおいて投資するため、ファンドの基準価額は情報技術関連の業種の市場環境等に強い影響を受ける場合があります。情報技術関連株式の下落局面ではファンドの基準価額が大幅に下落することがあります。また、業種をより分散した場合と比較して、基準価額が大きく変動する場合があります。さらに当ファンドは、投資環境によっては特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該銘柄の発行体に経営・財務破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合または予想される場合等には、ファンドの基準価額が大幅に下落することがあります。
為替変動 リスク	Aコースは、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、主要国通貨を用いた代替ヘッジを行う場合がありますが、通貨間の値動きが異なるため、十分な為替ヘッジ効果が得られないことがあります。また、為替ヘッジを行う際は、通貨間の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があります。ファンドの基準価額に影響します。Bコースは、原則として対円で為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

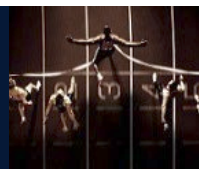
※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建て資産には為替変動リスクもあります)を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じる場合があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

巻末の「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずお読みください。

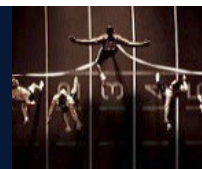
追加型投信／内外／株式



ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンド

Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）

追加型投信／内外／株式



収益分配金に関する留意点

■ 分配金は、預貯金の利息とは異なり投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

■ 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

■ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

当資料のご利用にあたっての注意事項

当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客さま用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

投資信託は、値動きのある有価証券等を対象としているため、投資元本を割り込み損失が生じることがあります。ご購入の際は販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）を必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。

投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。

また、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

個別銘柄につき、売買を推奨するものではありません。

当資料内で表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。

当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。

世界産業分類基準（「GICS」）は、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル（「MSCI」）およびマグローヒル・カンパニー傘下のスタンダード・アンド・プアーズ（「S&P」）が開発した独占的財産およびサービスマークであり、ティー・ロウ・プライスにライセンス供与されています。MSCI、S&PまたはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれも、当該基準や分類（またはその利用から得られた結果）について明示的にも暗示的にもいかなる保証や表明もしません。また、すべての関係当事者は、当該基準や分類のいずれについても、その独創性、正確性、網羅性、商品性または特定の目的適合性について、いかなる保証からも明示的に免責されます。前述の内容を制限することなく、MSCI、S&P、その関連会社またはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれの場合も、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的またはその他のいかなる損害（逸失利益を含む）について、その発生可能性が通知されていたとしても、いかなる責任も負いません。

詳しくは、契約締結前交付書面および投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

NOMURA

野村證券

商号等：野村證券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号

加入協会：日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／

一般社団法人金融先物取引業協会／

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は

**T.RowePrice**

商号等：ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3043号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会／

一般社団法人投資信託協会／

一般社団法人第二種金融商品取引業協会